役割拡大を目指す精神科外来の看護
看護カウンセリング外来の創設

平成22年5．30　北海道看護研究学会シンポジウム
五稜会病院　精神看護専門看護師　八木こずえ

なぜ、新たな役割拡大が必要か？

問題1、精神科医療ニーズの増大と変化

外来中心医療への転換 | うつ病増加（全国で2.4倍）

外来受診率の著しい増加（1日平均94名増加）

待ち時間の増加 | 診察時間の短縮化 | 満たされない患者の孤独とストレス　全国自殺率も高い

個別相談ニーズの増加

医療ニーズの変化に対応できない現状
医師の負担と疲弊防止も急務

看護カウンセリング新しさ・役割拡大とは？

これまでは

- 外来のNsの役割は主に処置と診察補助。
- 臨床心理士は個人予約式のカウンセリング。
- 家族相談は精神保健福祉士の役割。

外来Nsは病状を和らげる対応はするが、
相談業務に関わっていなかった。

問題2　外来に看護の視点が活用されていない

入院治療にのみ集中 | 専門性高いNsの存在

豊富な外来支援の資源が活用されていない。

病棟の相談電話多い
帰らない患者さん

外来と入院治療の結びつき
薄く、効率が悪い

発想

ベテラン病棟Nsが外来に定期的に出張して
看護相談ができたらどうなるか？？

能力高い中堅
看護師のやりがい・実力発揮！

ロールモデル
達人Ns育成
の道筋作り！

外来とつながり
治療効率向上・スキル開発の契機！

今・必要なことは
新たな医療ニーズに向けての変革

- 疾病構造の変化に応じ治療構造変革の必要性
- 看護の役割拡大によって支援資源を広げる。
- チーム医療の推進による治療力の向上

チーム医療のキーパーソンとして、
裁量権を拡大し、高い専門性を発揮する
看護師の役割期待が高まっている

特定看護師
専門看護師

ナース
プラクティ
ショナー

認定看護師

看護専門
外来

看護カウンセリング外来　発足経過

1、CNSと看護部長で案を作成、理事会が承認

2、Nsカウンセラー院内認定制度を設置
2名の候補を選出、　CNSが研修実施

3、　　2名が院内認定される。

4、開設準備（多職種との合意形成や連携構築）

2009・6月　開設

看護カウンセリング外来とは

主治医から指示のあった対象者に、
看護師の自律的判断で精神科療養指導を行う

精神看護における対人関係の理論と技法を駆使し、支持的関わりや傾聴ケアに基づく生活療養指導や心理教育を行い、健康回復や改善、成長への支援を行う。

主な内容

- 希死年慮への対応
- 感情的混乱の整理
- 孤独感への関わり
- 対人関係相談
- 生活の再構築の指導
- 休職・復職時の支援

実施概要

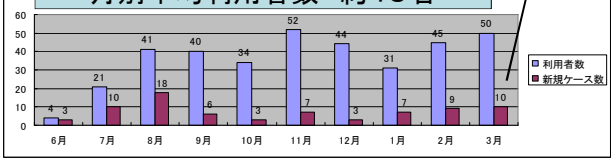
- 開設：月6回（月曜と土曜）
- 担当：CNSと院内認定Nsカウンセラー（2～3名）
- 内容：病状や生活療養上の悩み事 （40分程度）
- 開始：主治医の依頼（本人希望か主治医の勧め）
  初回は主治医から活用目的を聴取。
  継続利用も単発利用も可。
- 条件：医師診察、心理士カウンセリングと併用不可
- 診療報酬は精神科継続外来支援・指導料

開設後の実績（10ヶ月）

- 延べカウンセリング数　362回
- 利用者数　約80名（1回平均8～9名）
- 6ヶ月以上の継続利用者数　15名

新規ケース
月8名前後

月別平均利用者数　約43名



患者の変化（継続患者　自記式アンケート）

1、気持ちや気分の変化
「誰にも言えないことが言えて楽になる」
「落ち込みから立ち直れる、整理がつく」
「大量服薬したい気持ちを整理できた」

2、生活上の変化
「落ち込んでいる時の過ごし方が変わった」
「家族に病気の説明ができた」
「良くなるための方向性がわかり、目標のクリアを心がけるようになった」「具体的な助言を生かしている」

3、今後の改善点の要望
①開設曜日の増設　②Nsカウンセラーの増員

主治医の感想・認識

1、個別ニーズへの対応効果

2、病状安定効果

- 「聞いて欲しい」患者「つらさを分かち合えた」患者が多く、支えられることで安定化する。
- 女性Nsだけに話したいニーズもある。

3、医師の負担軽減効果

- 画期的な取り組み。助かるが、負担をかけている思いもある。

4、要望

- マンパワーがあれば開設日が多いと望ましい。

カウンセラーNsの感想・意見

- やりがい：がある。勉強になる。長期的にタイミングを図る支援方法を理解。活用する医師が増えており、理解されてきたと実感している。
- 病棟ケアに関する変化：

①地域で成長する患者を見て回復力に確信が持てた。
②退院不安の強い患者には看護カウンセリングを勧めることもできる。安心して退院促進できる。
③入院と外来をつなぐ架け橋役割がとれる。入院ケアの意味や位置づけを知り、Nsの役割を明確にできた

課題：カウンセリングスキルを高めること。
活用が必要な対象に広げていくこと。

どんな働きかけが必要だったか

1、理解者、協力者をつくること（連携構築）
- 看護部全体で将来ビジョンを共有
- 他職種に丁寧な意見聴取、連携と分担
- （医師・心理士・PSW・事務）

2、活用されるサービスとして定着させる
- 利便性の重視　患者と主治医の両面
- 簡易な方法、広報活動、ニーズの確認

困難を乗りきるための強みとなるもの

1、変化を恐れず挑戦する組織文化
2、一致団結する協力体制と豊富な人材。
3、CNSの組織横断的活動、フリー活動の保証

今後の課題

☆燃え尽き防止対策（研修体制の充実化）
☆新たなカウンセラーNsの養成。

将来の願いと希望・・・

精神科看護師、独自の看護技術として看護カウンセリングのスキルを洗練、確立していきたい。

全国で活用されるには、診療報酬として位置づけられることが必要。
精神疾患の悪化予防、病状安定化に貢献できるように発達させていきたい。